

第 16 回 国立天文台サイエンスロードマップ策定委員会議事抄録

日時：2026 年 3 月 24 日（火） 13 時 50 分～15 時 40 分

場所：国立天文台大会議室、Zoom

出席者：

（台外）秋山正幸委員（Zoom）、河野孝太郎委員、住貴宏委員（Zoom）、高橋慶太郎委員（Zoom）、濤崎智佳委員（Zoom）、戸谷友則委員（Zoom）、堀田英之委員（Zoom）、渡邊誠一郎委員（Zoom）

（台内）生駒大洋委員（Zoom）、齋藤正雄委員、都丸隆行委員（Zoom）、竝木則行委員、野村英子委員、藤井友香委員（副委員長）、本原顕太郎委員（委員長）、吉田道利委員

欠席者：

（台外）高田昌広委員

（台内）井口聖委員

陪席：

（台内）堀久仁子特任専門員（Zoom）、金子修研究推進課長、大内香織研究支援係長

1. 確認

1.1 出席者確認

本原委員長から、出席者の確認を行った。

1.2 第 14 回議事抄録の確認

本原委員長から、2 月 20 日に開催された第 15 回国立天文台サイエンスロードマップ策定委員会の議事抄録（案）について説明があり、承認された。

2. 報告と議論

2.1 運営会議報告

吉田委員（副台長）から、3 月 10 日に開催された国立天文台運営会議におけるサイエンスロードマップ（SRM）に関する質疑応答の状況について報告があった。特に、重力波関係 3 提案の再構成に関し、運営会議委員から種々の意見があったことについて共有された。

2.2 SRM 報告書

2.2.1 SRM 報告書の修正について

本原委員長から、SRM 報告書原稿に対する委員からの修正提案の反映状況について説明があった。また、運営会議からの意見を踏まえ、重力波関係 3 提案の再構築に係る背景説明を追加したことについて説明があり、意見交換を行った。

意見交換の結果、SRM 報告書原稿の修正内容については概ね了承され、必要に応じ文言の微修正を行うこととした。

（主な意見交換）

- －重力波関係の 3 提案を再構築することにより、将来の重力波天文学の発展に向けた計画として優先すべきと本委員会が判断した点について、運営会議に理解されているのか。
- －3 つの提案は元来一体性の高いものであることも説明を行ったが、一つにまとめて付加価値を付けて評価を上げた、という印象を持たれた方もいた。
- －重力波関係の提案の再構築の理由は、単に他の分野に比べて技術的な関連が強いからではない。現行の KAGRA の完成以後の重力波プロジェクトが未定である中で、基礎技術開発として再整理した点を明確に記述すべき。
- －今後の実施計画策定に向けては、再構成を行った重力波プロジェクトの提案においても、必要なりソースは各要素で切り分けて提出してもらう必要がある。
- －再構成後の提案名が「重力波推進プロジェクト」になっているが、再構成の趣旨である基礎技術開発の位置付けが十分に反映されていないのではないか。
- －本文中にはかなり厳しいことを書いている。一方で、提案名はフロンティア事業である KAGRA 計画への影響を考慮したものになっている。

2.2.2 SRM 報告書今後のスケジュールについて

本原委員長から、SRM 報告書に係る今後のスケジュールについて説明があった。最終版を運営会議に諮り 3 月末までに承認を得る予定であること、及び 4 月の早い時期に公開する予定であることについて合意された。

2.3 各提案へのフィードバック文書の準備

2.3.1 内容

本原委員長から、提案者へのフィードバック文書の準備状況について説明があった。各担当委員に対し、改善が期待される点の記述を中心に確認を行うよう要請があり、意見がある場合は 3 月 25 日正午までに申し出ることとした。

2.3.2 フィードバックの仕方・「SRM 掲載における備考」の取り扱い

本原委員長から、提案者へのフィードバックについては、SRM 報告書 WEB 掲載と同時期に発送する旨の説明があった。

また、フィードバックに対する提案者からの意見を受け付けることとし、委員長が通知文を作成し、委員会に回覧することとした。本委員会は 3 月末を以て終了となるため、4 月以降の対応は科学戦略委員会が行うことを確認した。

なお、各プロジェクトのレビューにおける「SRM 掲載における備考」の記述は本委員会限りとし、提案者へは送付しないことを確認した。

2.4 諮問事項の確認と答申案について

本原委員長から、運営会議から本委員会への諮問事項に対する答申案について説明があった。

続いて、本原委員長から、SRM 策定手続きに関して各委員から寄せられた意見をまとめ、

科学戦略委員会への申し送り事項とした旨の説明があった。

諮問事項への答申及び科学戦略委員会への申し送り事項について意見がある場合には、3月25日正午までに申し出ることとした。

2.5 その他

齋藤委員（副台長）から、SRM 報告書の英語版の作成に関して、委員長及び国立天文台執行部において翻訳作業を行うことの提案があり、了承された。

また、3月末に本委員会が終了することに伴い、4月以降の科学戦略委員会への運営会議からのオブザーバー参加について議論を行った。議論の結果、次回の運営会議が開催されるまでの間、河野委員に参加を要請することとし、河野委員の同意を得た上で、これを了承した。

本原委員長より、これまでの SRM 策定に関する協力に対し各委員へ謝辞が述べられ、閉会した。

以上